

平成 29 年度

事 業 計 画

社会福祉法人 函館大庚会

法 人 本 部

目 標

法人運営の中核を担う部署として、社会福祉法を中心とした関係諸法令の定めに従い、法人全体を統括し、各事業所において社会福祉事業が確実・効果的・適正に行われるよう、法人全体を機能的、効率的に運営することを目標とする。

- 1. 理 事 会の円滑な運営
- 2. 評議員会の円滑な運営
- 3. 監 事 会の円滑な運営
- 4. 法 人 の会 計 管 理
- 5. 職 員 の人 事 管 理
- 6. 法 人 の資 産 管 理
- 7. 各 種 行 政 対 応

- 評議員会の開催 定時評議員会（毎年6月）
必要の都度
- 理 事 会の開催 四半期決算毎、賞与承認、予算承認
必要の都度
- 役員研修の参加 全国社会福祉協議会等主催の研修

経 営 理 念

基本的人権を守り、豊かな人間環境の創造と医療、福祉の充実を目指し、永続的な安定経営に努め、地域社会への貢献を図る。

運 営 理 念

- 一. 私たちは、ご利用者様の意思と人格を尊重いたします。
- 一. 私たちは、ご利用者様が安心して生活できるよう支援いたします。
- 一. 私たちは、ご利用者様から信頼されるケアを実施いたします。

各種会議・委員会の設置目的

<連絡会議>

各部署、連絡・調整を徹底するため、月1回の連絡会議を開催する。

また、職員に幅広い知識と技術を取り入れるための、情報提供の場としての役割を果たす。

<広報委員会>

利用者に春夏秋冬の四季を感じていただくような機会を企画・提供する。

企画は利用者のみならず家族も参加できる「くつろぎの場」のような内容とし、利用者・家族の方・職員で、共に家庭的な雰囲気を楽しめるようにする。

<排泄委員会>

オムツ・パッドの使い方について外部・内部で研修を行い、適切な排泄介助を目指す。また水分や下剤管理なども含め、入居者のケアの質の向上を目指す。

<身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会>

「身体拘束ゼロ宣言」に基づき、身体拘束・言葉の拘束・環境拘束等すべての拘束を行わないような取り組みを推進していく。また、従事者による高齢者虐待が発生しないよう、研修やケアの点検を行っていく。

<リスクマネジメント委員会>

施設の生活の中で事故防止に努めているものの、万が一事故が起こってしまった場合は事故に至る状況の報告を徹底する。事故の未然の防止については、スタッフの「気づき」が重要である。「事故を防ぐための提案」を委員会で検討し、適切に報告できるよう努める。

また、感染症対策のためマニュアルづくりと、看護職員を中心とした専門職による指導を継続して行う。利用者の健康管理と清潔で安全な生活環境、及び職場環境が保たれているか、チェックと適切な指導を行う。

<入居判定委員会>

特別養護老人ホーム「松濤」および併用の入居判定手続きおよび入所判定委員会の設置・運営に関する要綱にもとづき、空床が発生した場合、円滑に申込者が入居できるようにする。また、入居判定について透明性が保たれるよう努める。

<衛生委員会>

労働災害防止の取り組みは労使が一体となって行う必要がある。そのために衛生委員会において、労働者の危険または健康障害を防止するための基本となるべき対策などの重要事項について調査審議を行う。

各種職場内研修の実施

<職員研修会>

1. 目的

介護・医療・福祉に関する知識・技術・倫理等を習得することを目的とする。

2. 実施主体

社会福祉法人函館大庚会

3. 実施期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

4. 実施日時

毎月第 1・第 3 水曜日 17 時 45 分～18 時 45 分

5. 実施場所

特別養護老人ホーム「松濤」 7F 地域交流スペース

6. 対象職員

社会福祉法人函館大庚会 介護職員他

7. 平成 29 年度研修会担当者

特別養護老人ホーム俱有 施設長

8. 研修会日程

開催日時	テーマ	担当者
4月5日・19日	介護保険制度と処遇改善交付金	本部・管理者
5月10日・24日	腰痛予防の方法	医療法人大庚会理学療法士
6月7日・21日	食中毒を防ぐための知識	管理栄養士
7月5日・19日	感染症予防の実際	看護職員
8月9日・23日	体圧分散の意味と方法	* 福祉機器関係外部講師
9月6日・20日	最新の排泄ケア用品	* 外部講師（白十字）
10月4日・18日	終末期の諸症状と対応	看護職員
11月1日・15日	高齢者虐待防止の対応（事例演習）	高齢者虐待防止委員会
12月9日	法人シンポジウム	
1月10日・17日	嚥下体操いろいろ	* 外部講師（言語聴覚士）
2月7日・21日	認知症の人のアセスメント視点	事例（介護職員提供）検討
3月7日・14日	足をみる～足病変の予防にむけて	* 外部講師

<主任・リーダー研修会>

1. 目 的 中堅職員のスキルアップを図る。

2. 内 容 リーダーシップを身につける。法人の全体像を理解する。

3. 方 法 内部または外部講師による講義等

4. 頻 度 年 1 回実施

<管理者研修会>

1. 目的 法人の中核を担う職員を育成する。
2. 内容 介護福祉関連政策の把握、人材育成、経営管理等
3. 方法 内部または外部講師による講義
4. 頻度 年1回実施

<新人職員研修>

1. 目的

- ① 函館大庚会グループの一員として歓迎することにより、所属意識を芽生えさせる。
- ② それぞれの行動特性を把握し、配属後の育成に活かす。
- ③ 1日を通じて伝える事
返事と挨拶ができること。笑顔でいること。他人からの指摘を謙虚に受け止めること。
自ら欲して没頭すること。

2. 研修項目と内容

研修項目	研修内容	担当者
自己紹介(スタッフ、新入職員)	相互交流	松濤介護統括主任
社会人としての基本的態度	社会人としての規範を守ること 組織に所属する上での規律 相談、連絡、報告	本部総務
就業規則説明	就業規則の概要 手続き書類の記入説明	本部総務
法人およびグループ紹介	沿革や各事業所	俱有施設長
認知症の理解	認知症サポーター養成講座 認知症の基本的理解	包括ときとうセンター長
高齢者虐待防止について	グループワーク 虐待してはならない よりよいケアに取り組む	俱有施設長
まとめ	グループワーク、チェックシート グループワーク 大事だと思った事を出し合う	俱有施設長

<外部研修>

開催年月日	対象職員	実施団体				
		行政	北海道社会福祉協議会	老人福祉施設協議会	社会福祉施設経営者協議会	その他
5月中旬 (1日間)	施設長 1名					全国個室ユニット型施設推進協議会総会
6月中旬 (1日間)	DS主任 1名 介護職員 3名					道南デイサービス訪問入浴協議会研修会
6月中旬ほか (計5日間)	介護職員 10名		北海道認知症実践者研修		北海道社会福祉施設経営者協議会総会	
6月中旬ほか (計7日間)	介護職員 8名				北海道社会福祉施設経営者協議会総会	ユニットリーダー養成研修
6月下旬 (1日間)	施設長 1名				北海道社会福祉施設経営者協議会総会	
7月中旬 (2日間)	事務職員 1名					全社協社会福祉施設開設・経営者セミナー
7月下旬ほか (2日間)	介護職員 4名			老人福祉施設研究発表会		
7月下旬 (1日間)	施設長 2名					全国個室ユニット型施設推進協議会施設長研修
7月下旬 (1日間)	介護職員等 8名					日本認知症ケア学会北海道地域部会大会
8月(未定)	介護職員 3名					社会福祉法人・社会福祉施設ブロック研修会(4開催)
8月第1週 (1日間)	事務職員 1名				北海道社会福祉施設経営者協議会施設部会	
9月5日	介護職員 1名 生活相談員 1名		北海道社会福祉大会			
9月未定	介護職員 3名			中堅職員・チームリーダーのための講座		
9月上旬 (2日間)	介護職員 1名					デイサービスセンター職員スキルアップセミナー

開催年月日	対象職員	実施団体				
		行政	社会福祉協議会	老人福祉施設協議会	社会福祉施設経営者協議会	その他
9月上旬 (1日間)	介護職員5名					南北海道認知症フォーラム
9月上旬 (1日間)	介護職員4名 生活相談員等4名		北海道高齢者虐待防止推進研修会			
9月上旬 (1日間)	介護職員等3名	介護・福祉施設等職員人材育成事業研修会				
9月下旬 (3日間)	介護職員4名					北海道介護福祉士会 介護福祉士初任者研修
9月～10月 (計5日間)	介護職員4名					北海道介護福祉士会 介護実習指導者養成研修
9月上旬～ 11月上旬 (13日間)	介護職員1名					認知症介護実践リーダー研修
10月上旬 (2日間)	施設長2名 介護職員等6名			道南地区老人福祉施設職員研究大会		
10月上旬 (1日間)	介護職員3名 生活相談員等3名					北海道社会福祉士会 高齢者虐待防止研修会
10月中旬 (1～3日間)	介護・看護職員等4名					国際福祉機器展
10月末定	生活相談員等1名		社会福祉施設管理運営セミナー			
10月末定	介護職員3名			中堅職員チームリーダーのための講座		
11月上旬 (2日間)	看護職員2名			看護職員研修会		
11月上旬 (2日間)	生活相談員1名					相談援助実習指導者養成研修
11月下旬 (2日間)	介護職員1名			カントリーミーティング		
11月下旬 (1日間)	施設長3名 事務職員等2名		社会福祉施設管理・運営セミナー			

開催年月日	対象職員	実施団体				
		行政	社会福祉協議会	老人福祉施設協議会	社会福祉施設経営者協議会	その他
11月末定	介護職員 3名			中堅職員チームリーダーのための講座		
11月末定	事務職員 1名			社会福祉法人・社会福祉施設経理取扱実務研修会		
12月上旬 (1日間)	介護・看護職員 4名 生活相談員等 4名	函館市高齢者虐待防止講演会				
12月中旬 (1日間)	DS介護職員 3名					デイサービス・訪問入浴連絡協議会研修会
12月上旬 (1日間)	生活相談員 3名		成年後見・権利擁護セミナー			
1月30日	施設長等 3名			老人福祉施設長研究セミナー		
1月下旬 (1日間)	介護職員2名					道ユニットケア推進協会フォローアップ研修会
1月下旬～ 2月上旬 (4日間)	介護職員 1名					介護福祉養成実習施設実習指導者特別講習
2月中旬 (2日間)	介護職員 2名					デイ協施設長研修
2月中旬 (1日間)	施設長 2名 介護職員等 8名			道南老施協施設長研修定期総会		
2月中旬 (1日間)	介護職員 5名					全国個室ユニット型施設推進協議会ユニットケア研修
2月末定	事務職員等 1名					社会福祉法人経営実務セミナー

その他、下記の分野の外部研修を活用し、職員の知識・技術の向上を図る。

- ・ 口腔ケア、フットケア、栄養等、個別技術・分野に関する研修
- ・ 介護職員の喀痰吸引研修および喀痰吸引指導施設研修
- ・ 看取り介護・看護に関する研修
- ・ 医療介護連携・病院施設連携に関する研修
- ・ 生活相談員、介護支援専門員の資質向上に関する研修
- ・ 会議運営やプレゼンテーション、接遇に関する研修
- ・ 介護分野におけるロボット技術活用に関する研修

特別養護老人ホーム「松濤」・短期入所施設「松濤」

目 標

私たちは、利用者への尊敬の気持ちを大切にし、その人らしさを尊重していく。また利用者と家族のニーズを捉え、豊かな生活を送ることが出来るよう支援していく。

1. サービスの質の向上

・基本サービス

ユニットケアの定義を理解し、一人ひとりの生活のリズムを大切にし、利用者の状態・課題に合わせて安全安楽に安心して生活していただけるように努める。また、現状に満足せず、A D LとQOLを向上させるために、利用者ひとりひとりが活気ある日々を過ごせるよう喜怒哀楽に共感して支援する。

・他部署との連携

お互いの仕事を理解し、協調性をもって助け合いながら同じ方向を目指して、専門性を生かしたサービス提供に努める。また、サービス提供に必要な情報共有を密にし、スムーズな連携を図るよう努める。

2. 職員の資質の向上

・成長のできる職場

人生の先輩である利用者や先輩職員の豊富な知識や経験から学ぶ事で人間性を高め、さらに自分の後輩へ伝えていく。また、新入職員や後輩職員は新鮮な技法・考え方・視点を持っている存在であり、積極的に意見交換を図っていく。

・心配りのできる職場

福祉の仕事は「心」にかかる仕事のため、他人を変えるのではなく、まず自分が変わろうという意思と柔軟性を持つ。

・外部研修への参加

外部研修への参加により、自己研鑽を図り、学んだ内容を職場で伝達・共有し実践に活かしていく。また、社会的に問題となっている福祉についての共通案件等について、興味をもって自ら学ぶ機会を持つよう努める。

3. 防災対策

・災害発生予防対策 防災教育

万が一の災害に備えて防災マニュアル等を通して、職員への周知徹底を図る。また、災害時には地域や町会との円滑な連携および対応を図る。

・避難・消火訓練

災害発生時の被害を最小限にとどめるため、通報連絡・避難誘導・消火の訓練を定期的に行い、消防機関の指導を要請する訓練を年2回行う。

4. 機能訓練の強化

個々に機能訓練目標・実施内容を計画し、毎月評価を行う。食事をしたり、入浴のため脱衣をしたり、居室からトイレまでの歩行といった日常生活上必要な動作のため、機能訓練に取り組み利用者の機能向上及び維持に努める。

5. 健康管理の維持強化

・早期発見、早期治療

老化による身体機能は、予備力の減少、防衛力や回復力、適応力の低下をきたし、高い有病率、突発的な病状の出現、急に重篤な結果に至るなど、注意すべき点が多くある。家族・介護・医務・栄養の協力体制のもと、異常の早期発見に努める。また、医務及び生活相談員は関係医療機関と連携し、緊急時にスムーズな対応が出来るよう努めていく。

・老年期の心理特性・精神機能の理解と対応

加齢は人格の変容をもたらし、認知症やうつ状態などの精神症状が出現する。老年期の心理特性を理解し、対応の習熟に努め、その利用者にふさわしい支援をするよう努める。

・医療の緊急時の対応

緊急時は様々な状況が想定されるため、都度状況に合わせて対応する。その際は緊急時対応マニュアルを元に各部署で連携する。緊急時対応マニュアルの周知徹底を行い、緊急時に迅速に対応できるよう努める。

6. 地域との連携の強化

ボランティアの受入や地域交流スペースの貸出、また施設行事への地域住民の参加依頼や地域行事への参加などを通して地域社会との交流を深める。

地域の中での福祉相談窓口の一つとしてまちづくりの役にたてるよう意識を持つ。

法人の運営する介護保険事業所や医療機関と連携をとりながら、利用者にとって最も適切なサービスを提供していく。

7. 苦情処理対応の強化

苦情解決処理機関を設置し、利用者の皆様が福祉サービスを適切に利用できるように苦情受付窓口を設置し、迅速、円滑な解決に努め、安心して利用できる施設として信頼を得ることに努める。

施設サービスへの苦情は、当事者である利用者と施設間で適切に解決されるべきであるが、解決の処理に社会性、客観性を確保するため第三者委員を設置し、苦情解決処理機関設置要綱に基づき適切な解決を図る。

苦情の受付及び解決の仕組みについては、施設内の掲示、パンフレットの配布等によりご案

内する。また、苦情解決責任者、苦情受付担当者及び第三者委員の氏名・連絡先を周知できるようにする。施設の運営改善に活かす為、利用者及びその家族から積極的に意見・要望を受付ける。又、苦情が寄せられた場合は、リスクマネジメント委員会を通して適正に処理する。

8. 実習生の積極的な受入

社会福祉事業の推進に寄与する為、積極的に実習生の受入を図る。

事 業 内 容

(特別養護老人ホーム)

(短期入所施設)

月	内 容 利用者	開催予定日	職 員 厚生関係	その他の会議
4月	開設記念行事	第3週	定期健康診断	連絡会議 サービス担当者会議
5月	お花見、ドライブ	適宜	腰痛検診	フロア会議 身体拘束・高齢者虐待防止委員会
6月	ドライブ	適宜		リスクマネジメント委員会
7月	七夕祭／夏祭り	第1週／第3週		広報委員会 給食委員会
8月	港まつり見物 御神輿見物	第1週		排泄委員会
9月	敬老会	第3週		
10月	ドライブ	適宜	定期健康診断	
11月	文化祭	第1週	腰痛検診	自衛消防訓練 (1) 119番通報訓練 (2) 消火訓練 (3) 避難誘導訓練 (4) 消防用設備等取扱訓練 (5) 応急救護講習
12月	クリスマス会	第4週	全体研修会	
1月	もちつき	第2週		
2月	豆まき	第1週		
3月	雛祭り	第1週		

その他・・・各階での誕生会・おやつパーティー・外出レク等

デイサービスセンター「松濤」

目 標

利用者一人ひとりの意思を尊重し、通所介護計画、介護予防通所介護計画及び第1号通所事業計画に基づき、要介護状態、要支援状態または事業対象にある高齢者等に対し、心身の特性を踏まえて全体的な日常生活が維持向上できるよう支援していく。また、通所介護を通じ利用者が抱える不安を解消することで生活意欲や社会性の回復など身体機能だけでなく精神面での安定や心身機能回復がはかられるよう柔軟で広域的に支援するよう努める。

ご利用者のみならず、その家族（介護者等）についても、その身体的・精神的負担を増大しないよう関係機関等と協同して改善や軽減に努める。

1. サービスの質の向上に向けて

利用者の尊厳を守り、利用者一人ひとりのニーズを的確に把握し、プライバシーを尊重してより良い介護・介護予防サービスが提供できるよう努める。

利用者を敬愛し、暖かな心の触れ合いを大切に、笑顔を忘れず、日常生活での自立を支援し、明るく楽しい毎日が過ごせるようなサービス提供を目指す。

2. 職員の資質の向上

福祉施設の看護・介護職員としての自覚を促し、職員自らが高い知識と優れた技術習得できるよう指導する。

外部研修等への積極的な参加を促し、施設内部においても研修機会を設けて、新たな資格取得や意識の向上を図ることに努める。

3. 危機管理意識（防災・防犯・事故）の徹底

万が一の災害に備えて防災マニュアル等を通して、職員への周知徹底を図るとともに意識の高揚を図る。

街に立地している施設であることを再認識し、改めて職員の防犯に対する意識を高めるよう努める。

4. 機能回復訓練（運動器機能向上）の強化

利用者が自立した生活を営むことができるよう、また、在宅生活を安全で快適に過ごすことができるよう、可能な限り利用者の生活事情に即した機能訓練を実施する。

法人のもつ特性を十分に活かし、他職種協同で介護予防事業の推進を目指す。

5. 高齢者の栄養に関する取り組み

高齢者の食の重要性と栄養に対する関心を少しでも持ってもらうため、利用者・利用者家族を対象に『おいしい話』を企画しております。

6. 苦情対応について

利用者等から拝聴した意見は真摯に受け止め運営改善に反映させる。また、苦情が寄せられた場合は、速やかに苦情処理委員会を通して適正に対応し、再発防止に努めるとともに、苦情に対する職員意識が低下しないよう努める。

7. 地域ボランティアとの交流機会の確保

町会、地域ボランティアなど近隣との交流活動を積極的に行い、地域連携の強化を図り、地域に根ざした福祉施設を目指す。

事 業 内 容

(通所介護)

月	内 容 利用者	開催予定日	職 員 厚生関係	その他
4月	開設記念祭／誕生会	第3（日）	定期健康診断	
5月	お花見／誕生会	第3（日）	腰痛検診	連絡会議 サービス担当者会議 事業所会議 身体拘束・高齢者虐待 防止委員会 リスクマネジメント 委員会 行事委員会 広報委員会 事例研究研修会 給食委員会
6月	健康祭り／誕生会	第3（日）		
7月	夏の観葉見物／誕生会	第3（日）		
8月	夏祭り／誕生会	第3（日）		
9月	敬老会／誕生会	第3（日）		
10月	秋の紅葉見物／誕生会	第3（日）	定期健康診断	
11月	文化祭／誕生会	第3（日）	腰痛検診	自衛消防訓練 (1) 119番通報訓練 (2) 消火訓練 (3) 避難誘導訓練 (4) 消防用設備等取扱訓練 (5) 応急救護講習
12月	クリスマス会・忘年会／誕生会	第3（日）	全体研修会	
1月	新年会／誕生会	第3（日）		
2月	節分祭／誕生会	第3（日）		
3月	雛祭り／誕生会	第3（日）		

ヘルパーステーション「松濤」

目 標

利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、居宅介護計画・訪問介護計画に基づき、利用者を総合的にサポートする。また、関係機関との綿密な連携を図り、在宅生活が継続できるようサービス提供に努めます。

1. サービスの質の向上

利用者個々の心身の特性とニーズを的確に把握し、能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴・排泄・食事の介護その他の生活全般にわたり援助を行なう。

事業実施にあたり関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供を行なう。

事業の継続的改善を行い利用者・家族の満足を得る。

2. 職員の資質の向上

福祉施設の職員並びに介護職員としての自覚を促し、職員自らが専門的な知識と技術を習得するため、ミーティング、カンファレンス、勉強会の実施、外部研修会への参加、報告会、資格取得に努めます。

特定事業所として、サービス提供責任者と訪問ヘルパーの連携を強化し、質の高い介護を提供します。

3. 危機管理意識（事故・防犯）の徹底

訪問介護サービスの提供時の事故に対し、冷静沈着かつ、的確に対応・処理できるようミーティング・カンファレンス・引継ぎ等で危機管理意識の周知徹底と意識高揚を図ります。

訪問介護サービス移動時の安全運転に努めます。

4. 苦情処理対応の強化

私ども職員は、いつも、声を掛けやすい雰囲気でいるように努めています。しかし、介護サービスを受けておられる高齢者の方やご家族の中には、人の手を煩わせることに気後れを感じ、言いたいことを職員に言い出せない方が居られるかもしれません。また、良かれと思って行っていたサービスが、説明不足のため、ご本人にとって不満足なものにしか感じない、といったことがあるかもしれません。そこで、利用者の意見を代弁し、施設との間に入り、問題の解決に力を貸していただける第三者の体制を導入し、問題解決に努めます。

5. 稼働率の向上

在宅の高齢者が対象なので、常に入院・入所等を踏まえながら、一層の稼働率の向上に向けて体制作りを行います。

事 業 内 容

(訪問介護)

月	内 容 利用者	開催予定日	職 員 厚生関係	その他
4月			定期健康診断	連絡会議 サービス担当者会議 事業所会議 身体拘束・高齢者虐待 防止委員会
5月			腰痛検診	リスクマネジメント 委員会 行事委員会 広報委員会 事例研究研修会 給食委員会 ミーティング・カンファレンス ヘルパー連協定例会 議
6月				
7月				
8月			.	
9月				
10月			定期健康診断	
11月			腰痛検診	自衛消防訓練 (1) 119番通報訓練 (2) 消火訓練 (3) 避難誘導訓練 (4) 消防用設備等取扱訓練 (5) 応急救護講習
12月			全体研修会	
1月				
2月				
3月				

グループホーム こんはこだて

目 標

運営理念である「利用者一人ひとりが、地域の中でその人らしく、あたりまえの生活を送ることができるよう支援する。」の実践を図る。

1. サービスの質の向上

サービスの質の良し悪しは、利用者の姿に表れる。認知症があっても、人として生き生きと暮らすサービスを目指します。そのために、日々の介護において、利用者のできること・できないことの見極めをした上で、「生きる力を引き出す」サービスを行う。

2. 職員の資質向上

介護を仕事とするものが当然に持つべき基本的な知識や技術を、パートも含めた職員全員が身につけることを目指す。同時に、利用者や家族と「人と人」としてきちんと対応できるようなコミュニケーション能力を高めることを目指す。

具体的には、別途研修計画のとおり、外部研修や職場内研修を活用していく。

南北海道G H協会Aブロックの研修会を利用し、職員のモチベーションの強化・継続を図る。

3. 危機管理意識の徹底

万が一の災害に備えて、年2回の自衛消防訓練等を通じて、各種防災に対し職員の参加意識を高める。また転倒や誤嚥などの事故について理解を深め、事故防止体制の充実を図る。

4. 健康管理

利用者の状態の変化に対応できるよう、職員の観察能力を養う。また急変時には速やかに協力医療機関との連携をとる。さらに訪問看護ステーションこんと、日頃の状態把握、健康管理についての指導助言、夜間・休日の支援体制について連携をとっていく。

5. 地域との連携の強化

買い物や散歩など普段の活動を通して、地域や地域包括支援センターこんとの協力関係を深めると共に、実習生やボランティアの受け入れも積極的に行うなどして、認知症の人への理解を深め、グループホーム運営への協力者を増やしていく。

町会行事への参加や、ホームでの地域交流イベントの開催を積極的に行う。なお、「運営推進会議」では、町会の方や地域包括支援センターにもメンバーとなっていただき、2ヶ月に1度、運営状況について報告し、助言を仰ぐこととなっている。

6. 苦情処理対応の強化

利用者および家族が、気軽に苦情や意見を出しやすい工夫をするとともに、職員にも苦情を前向きにとらえるように意識付けをしていく。

事 業 内 容 (認知症対応型共同生活介護)

月	利 用 者	職 員 厚生関係	その他の活動	今年度の目標
4月	誕生会 花苗配布企画準備	定期健康診断	連絡会議 サービス担当者会議 身体拘束委員会 感染症対策委員会 事故対策委員会 苦情解決委員会 事例研究研修会	<p>【人材育成】 ・全職員が専門職としてのプロ意識を高めるため、自己課題をみつけるとともに個々の課題の解決に取り組む。</p> <p>【ケアの質の向上】 ・全職員が個々の利用者の思いを考え、利用者の出来ることに着目し、残存能力を活かした個別ケアを提供する。</p> <p>【地域との関係】 ・時任町会ならびに近隣住民と交流を深め、地域の暮らしをよりよいものにする。</p>
5月	端午の節句 花見会食&ドライブ 花苗配布企画実施	実践者研修 リーダー研修		
6月	時任町地域合同避難訓練			
7月	野外食 七夕祭り・屋外食 大門松濤祭り			
8月	誕生会 函館港祭り 本町夏祭り 誕生会・屋外食			
9月	敬老の日・誕生会 十五夜・お彼岸 地域交流バーべキュー			
10月	紅葉見物 バイキング食 誕生会	定期健康診断 リーダー研修		
11月	外出 イルミネーション見学			
12月	クリスマス会 餅つき・年越し 誕生会・冬至			
1月	正月・七草			
2月	歌舞伎見物 節分・誕生会			
3月	ひな祭り 誕生会・お彼岸			

その他・・・時任町会ふれあい会食等の町内会行事や法人内事業所の行事等への参加及び出席

小規模多機能ハウスこん

目 標

利用者一人ひとりの意思を尊重し、心身の特性を踏まえて地域での日常生活を維持、向上できるよう支援していく。また利用者が抱える不安を解消することで生活意欲や社会性の回復など、身体機能だけでなく精神面での安定や心身機能回復がはかられるよう、柔軟で広域的に支援するよう努める。

ご利用者のみならず、その家族（介護者等）についても、その身体的・精神的負担を増大しないよう関係機関等と協同して改善や軽減に努める。

1. サービスの質の向上に向けて

利用者の尊厳を守り、利用者一人ひとりのニーズを的確に把握し、プライバシーを尊重して小規模多機能型居宅介護施設として求められる介護・介護予防サービスが提供できるよう努める。

利用者を敬愛し、暖かな心の触れ合いを大切に、笑顔を忘れず、日常生活での自立を支援し、明るく楽しい毎日が過ごせるようなサービス提供を目指す。

2. 職員の資質の向上

福祉施設の看護・介護職員としての自覚を促し、職員自らが高い知識と優れた技術を習得できるよう指導する。

外部研修等への積極的な参加を促し、同様に施設内部においても研修機会を設けて職員の自己研鑽に励ませ、新たな資格取得や意識の向上を図ることに努める。

3. 危機管理意識の徹底

万が一の災害に備えて自衛消防訓練等を通して各種防災に対し、職員への周知徹底を図るとともに意識の向上を目指す。

転倒や誤嚥などの事故について理解を深め、事故防止体制の充実を図る。

4. 健康管理の維持強化

利用者が自立した生活を営むことができるよう、また、在宅生活を安全で快適に過ごすことができるよう、可能な限り利用者の生活事情に即した機能訓練を実施できる環境づくりを他職種協同で目指す。

法人のもつ特性を十分に活かし、介護予防事業の推進を目指す。

5. 地域ボランティアとの交流機会の確保

地域交流スペースの有効活用などにより町会、地域ボランティアなど近隣との交流活動を積極的に行い、地域に根ざした福祉施設を目指す。

運営推進会議にて、運営状況などについて報告し助言を仰ぐ。

6. 苦情処理対応の強化

利用者および家族が、気軽に苦情や意見を出しやすい雰囲気作りや信頼関係の構築を目指すとともに、職員にも苦情を前向きにとらえるように意識付けをしていく。

事 業 内 容

(小規模多機能型居宅介護)

月	内 容 利用者	開催予定日	職 員 厚生関係	その他の会議
4月	誕生会	第3週	定期健康診断	(偶数月実施予定)
5月	お花見／誕生会	第2週	腰痛検診	
6月	新緑ドライブ／誕生会	第3週		
7月	七夕祭／誕生会	第3週		
8月	夏祭り／誕生会	第4週		
9月	敬老会／誕生会	第3週		
10月	秋の紅葉見物／誕生会	第4週	定期健康診断	
11月	誕生会	第3週	腰痛検診	
12月	クリスマス会／誕生会	第3週	全体研修会	
1月	新年会／誕生会	第3週		
2月	節分祭／誕生会	第3週		
3月	雛祭り／誕生会	第3週		

介護付有料老人ホームこん

目 標

私たちは、入居者様の思いを尊重し、共に楽しみ、共に笑いあう関係を作ります。

私たちは、仲間と協力しチームケアをもって、安全な生活環境を提供します。

1. サービスの質の向上

入居者の出来ていたことが出来なくなってしまった悔しさ、誰かの世話にならなくてはいけない辛い気持ちに寄り添い、支援を行うことを基本とする。社会福祉法人函館大庚会の基本理念、ホームの目標の徹底をはかり、より良い介護環境を整える。

2. 職員の資質向上

スタッフの行動、発言、表情全てが入居者を取り巻く環境であることを常に意識し、基本理念、ホームの目標の徹底を図ることでスタッフの質の向上を目指す。

また法人研修会だけでなく、外部研修会にも積極的に参加し、介護技術の向上と専門職としての意識を高める。

3. 危機管理意識の徹底

万が一の災害に備え、自衛消防訓練等だけでなく、地域の防災訓練等にも参加し、各種防災に対し職員の意識を高める。

また介護技術の向上、職員間の協力、創意工夫にて、転倒、誤嚥等の事故防止に努める。事故発生時は再発防止委員会を開き、再発防止策を周知徹底する。

4. 健康管理の維持強化

入居者の希望や状況に合わせて、運動の機会を提供する。また、日常の生活の中で体を動かすことで、筋力低下防止、体力維持に努める。

入居者の変化に対応できるよう、日々の健康状態を記録する。また、毎月入居者の主治医に入居中の記録を報告する。

急変時には速やかに協力医療機関、又は入居者の主治医に連絡をとり、看護師並びに介護職員にて適切な対応を行う。

5. 地域との連携の強化

ボランティアの受入や地域交流スペースの開放、活用等、また施設主催の行事開催時の受入や町会行事への参加を積極的に行う。また運営推進会議にて、運営状況を報告し助言を仰ぐ。

6. 苦情処理対応の強化

入居者および家族が、気兼ねなく話ができる雰囲気を作り、苦情や要望を言い易い関係作りを目指す。また苦情・要望は、サービスの質の向上や、職員の資質の向上につながるものと捉え、誠意を持って対応する。

事 業 内 容

(介護付有料老人ホームこん)

月	内 容 利用者	開催予定日	職 員 厚生関係	その他の会議
4月	4月誕生会	第3週	定期健康診断	
5月	お花見 (5月お誕生会)	第2週	腰痛検診	連絡会議 サービス担当者会議 モニタリング会議
6月	外出行事	第3週		主任会議 職員研修会
7月	七夕行事 6月7月お誕生会	第3週		フロアミーティング 運営推進会議 (偶数月実施予定)
8月	花火大会・松濤夏祭 本町こん夏祭り	第4週		運営懇談会 行事委員会 給食委員会
9月	長寿を祝う会 8月9月お誕生会	第3週		
10月	外出行事	第4週	定期健康診断	
11月	10月11月お誕生会	第3週	腰痛検診	自衛消防訓練 (1) 119番通報訓練 (2) 消火訓練 (3) 避難誘導訓練 (4) 消防用設備等取扱訓練 (5) 応急救護講習
12月	クリスマス会 忘年会	第3週	法人全体研修会	
1月	新年会 12月1月お誕生会	第3週		
2月	節分行事 市民歌舞伎鑑賞会	第3週		
3月	ひなまつり行事 2月3月お誕生会	第3週		

特別養護老人ホーム併用・短期入所施設併用

- 目標
1 入居者や家族、ケアマネジャーなど関係機関から「併用に入居して本当によかった」「これからも併用を利用したい」と言われる施設になる。
2 年間稼動率（日数） 特養 95% 短期入所 90%

- 支援方針
1 入居者がその有する能力に応じて自律的な日常生活を送ることができるよう支援する。
2 入居者の意思や人格および入居者・家族のプライバシーを尊重しながら、入居者間や家族間の相互交流を促進する。
3 介護・医療・福祉サービス関係者をはじめとする地域の関係機関と連携し、入居者が地域社会と交流できるようにする。

- (
運営方針
1 職員は、関係法令・通知を遵守するとともに、制度の動向と福祉の価値や倫理とを常に展望する。
2 職員は、安全・安心な施設環境を維持する。
3 職員は、入居者および家族にとって、顔と名前の見える存在になる。
4 職員は、専門職・社会人として自己研鑽に努め、良きチームワークで仕事に取り組む。
5 職員は、介護福祉の技術や知見を生かして、地域福祉の増進や、介護福祉の担い手育成に貢献する。

取組内容

1 基本サービス

(1) 介護

- ① 食事、入浴、排泄、整容等の介助は自立支援を念頭におき適切な知識や技術をもって行う。
② 個別もしくは集団による機能訓練を行い入居者の心身機能の維持向上を図る。
③ 共同生活での役割発揮支援や入居者同士の交流促進により社会的関係を維持する。

(2) 医療サービス

- ① 嘱託医にて入居者の定期的診察を行い、疾病の早期発見早期治療に努める。
② 日常の健康管理を看護介護連携のもと行い、体調悪化の予防や異変の早期発見に取り組む。
③ 協力医療機関・歯科、その他診療科と丁寧に連絡・相談・報告を行う。

(3) 食事の提供

- ① 栄養、入居者の心身の状態や嗜好、季節感を考慮した食事を提供する。
② 入居者ができるだけ自立して食事がとれるよう、また入居者同士が交流しながら食事がとれるよう支援する。

(4) 社会交流

- ① 入居者の好みや能力に応じた趣味や娯楽の機会を提供する。
- ② 家族や友人が気軽に面会できるように配慮する。
- ③ ボランティア等の来訪や、地域への外出の機会をもつ。

(5) 個別性を尊重した計画的な支援の実施および管理

- ① 入居者の意思や価値観、家族の考え方の確認を、継続的に丁寧に行う。
- ② 入居者や家族の個人情報やプライバシーは大切に取り扱う。
- ③ 顕在化している状況だけではなく、入居に至るまでの生活やそこで培われた考え方、社会的関係も理解しながら、多職種で支援内容を検討していく。
- ④ 支援内容をわかりやすい言葉で懇切丁寧に説明し、施設サービス計画書について入居者および家族の同意を得る。
- ⑤ 支援の実施状況は隨時もしくは定期的に評価する。

2 非常災害対策

(1) 計画の策定および訓練の実施

- ① 消防計画、地震・津波等災害に対処する計画を策定する。
- ② 計画にもとづき、消防立会の避難訓練を年2回行う。

(2) 日常の備え

- ① 備品等の選定や配置は、消防法にもとづいて行う。
- ② 計画にもとづき、月1回、防災意識の涵養や多様な避難方法の体験の研修を行う。
- ③ 非常に向けた備蓄や、業務維持の方策を検討していく。
- ④ 近隣住民や施設、入居者家族等と良好な関係を構築していく。

3 衛生管理

(1) 指針の徹底

厚生労働省「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」をもとに作成した「感染症及び食中毒の予防およびまん延防止のための指針」および「発生時の対応策」を施設内に周知徹底する。

(2) 職員教育

感染対策委員会および給食委員会の設置、および研修を通じて職員に日常の清潔保持や感染防止対策について周知徹底する。

4 事故防止および発生時の対応

(1) 指針の徹底

「事故発生の防止のための指針」にもとづき、環境整備や支援の工夫を継続的に行い、事故防止検討委員会や研修を通じて職員に周知徹底する。

(2) 事故発生の場合

入居者・家族への対応を最優先するとともに、法人および行政への報告、その分析を通じた改善策の職員への周知徹底を行う。

5 苦情対応

- (1) 受付窓口の明示および対応体制の整備
 - 入居者・家族にわかりやすいように対応体制の説明および掲示を行う。
- (2) 苦情の分析と再発防止
 - 苦情の内容を分析し、原因や改善策を施設内に周知し、再発のないよう努める。
また、日頃から家族や関係機関との連絡・連携を怠らない。

6 地域および関係機関との連携

- (1) 松風町会への協力
 - ① 町会活動に職員が参画する。
 - ② 施設周辺の環境美化や除雪に努める。
- (2) 地域交流・地域貢献
 - ① 広報紙の発行（随時）や事業所パンフレットでの広報を行う。
 - ② ボランティアを積極的に受け入れる。
 - ③ 地区を担当する地域包括支援センターこん中央と連携し、住民の介護予防や介護家族支援に協力する。
 - ④ 養成校と連携し、介護実習や相談援助実習受け入れをする。

7 人材育成

- (1) 人材育成のねらい
 - ① 職員ひとりひとりが倫理観を備えた専門職であるよう育成する。
専門職として、知識や技術を發揮した良い仕事によってこそ、入居者の変化が生まれ、家族から喜ばれることを体感できるよう育成する。
 - ② 施設内での情報共有や、職員と家族のコミュニケーション促進の意義を徹底し実行できるよう育成する。
 - ③ 長期的には、自律的に学ぶ風土を醸成し、質のよい人材を確保・育成できるようにする。
- (2) OJT
 - ① 日々の具体的支援に即して個人レベルの知識や技術の確認、職員個々の課題抽出を行い、それらを整理し、個々への指導やスーパービジョン、施設内研修会につなげる。
確認の機会
 - ・施設サービス計画のモニタリングやサービス担当者会議
 - ・管理者等による現場把握
 - ・申し送り時の情報共有、ヒヤリハット報告・事故報告の分析
 - ② 介護主任、ユニットリーダーによる指導
- (3) OFf-JT
 - ① 施設内
 - ・外部研修の伝達研修会
 - ・テーマ別研修会（接遇、事例検討、家族支援など）（内部講師、外部講師）
 - ・経験年数に応じた振り返り研修会

② 外部研修への派遣

- ・ ユニットリーダー研修、ユニットケア管理者研修
- ・ 認知症介護実践者研修、同管理者研修、同専門リーダー研修
- ・ 介護実習指導者養成研修、相談援助実習指導者養成研修
- ・ 重点テーマ 「虐待防止」「食事の支援・口腔ケア」
「チームワーク」「記録」「事例研究」「会議技術」

③ 各種実践発表、養成校非常勤講師

④ 資格等試験対策勉強会、実習受け入れ

事 業 内 容

(特別養護老人ホーム 倶有)

(短期入所施設 倶有)

月	内 容 利用者	開催予定日	職 員 厚生関係	その他の会議
4月	地域交流行事/誕生会	第3週	定期健康診断	
5月	お花見／誕生会	第3週	腰痛検診	・連絡会議 ・身体拘束防止及び高齢者虐待防止委員会
6月	地域交流行事／誕生会	第3週		・リスクマネジメント委員会（感染防止対策・事故防止対策）
7月	七夕祭／夏祭り 誕生会 港まつり花火鑑賞	第1週・第3週		・給食委員会 ・地域交流委員会
8月	誕生会 港まつり等観覧	第3週		・フロア会議 ・サービス担当者会議
9月	敬老会／誕生会	第3週		
10月	紅葉狩り／誕生会	第3週	定期健康診断	
11月	文化祭／誕生会	第3週	腰痛検診	自衛消防訓練 (1) 119番通報訓練 (2) 消火訓練 (3) 避難誘導訓練 (4) 消防用設備等取扱訓練 (5) 応急救護講習
12月	開設記念行事 クリスマス会／誕生会	第4週	全体研修会	
1月	新年会／誕生会	第2週		
2月	節分祭／誕生会 市民歌舞伎鑑賞	第1週		
3月	雛祭り／誕生会	第1週		